

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201401		
法人名	株式会社ファミーユ		
事業所名	グループホーム つぐみ押切		
所在地	静岡県静岡市清水区押切2119-1		
自己評価作成日	平成31年3月4日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2294201401-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2294201401-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年3月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「利用者様の思い願いを第一に考えるケアの実践」を理念に、一人一人のこれまでの生活歴や性格、大切にしてきたもの、繋がり等のアセスメントを細かく行い、職員が把握、情報を共有し合い、グループホームでの生活に活かせるよう心掛けています。私たちは、たとえ認知症があっても常に傍に寄り添い、その方を尊重し、その方の思いを大切にしています。言葉や行動への戸惑いがあってもそのしぐさや行動から読み取り、気持ちを汲んで共同生活に活かしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

例えば「入居したばかりで足元が頼りない」となれば朝番や遅番の時間帯をずらし、円滑に利用者の状態に沿うことができる職員、事業所体制にある点に秀でています。食事を外注とする事業所も増える中、対面キッチンで利用者とは話をしながら調理をおこない、また味噌汁やメニューの白和えからはおふくろの味が満喫できます。利用者の間に職員も入り、同じ献立を食べつつ「唐揚げ好きですもんね」「細かく刻んだから沢山食べられましたかね?」と他のテーブルにも気遣う手厚さで、そのため利用者皆壮健で、防災訓練では新人職員が心許なげに消火器を扱う一方で、さながら『押切消防団』の如く振舞う利用者の姿があります。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

静岡県(グループホーム つぐみ押切)  
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の思いや願いを第一に考えるケアの実践を理念とし、研修や会議等で出る課題に対し、全員でその都度理念を振り返り、再認識している。	理念は新採者のオリエンテーション、年間研修にも位置付け、また「企画書は目的を書くよう定型されている」等、理念に立ち返ることができるとともに、管理者が気づいて軌道修正しやすい仕組みをつくっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日々の買い物に利用者や外出したり、公園に散歩等に出掛け地域の方と挨拶を交わしたり近隣の保育園や学生と交流を行っている。	地域の(運推メンバーとは異なる)民生委員の紹介を得て、AEDの取り扱い説明と認知症のプチレクチャーを地域2箇所の公民館で開講し「何か困ったことがあれば…」に結ばれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症ケアへの取り組みや事例を通して認知症への知識を深めたり、公民館の集会に参加し、認知症の初期症状についての理解をしていただけるよう促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括職員や民生委員の方、ご家族に施設内での事故やヒヤリハットを公開し、ご意見やアドバイスをいただいている。後日、施設内で共有しケアに取り入れている。	昨年介護支援専門員の交替があったことを機に、『運営推進会議・ご家族向け介護相談会開催のお知らせ』と題して開催され、終了後に家族が気軽に相談できる機会を設けており、実際相談実績もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方や後見人が必要な方などに対し生活支援課や介護保険課の方に、日々の報告や相談を行う等連携している。	昨年度の課題としていた『シニアサポーターの登録事業所』は達成しています。また未だ具体的ではないものの、初期集中支援室からも「手伝ってもらいたい(講師依頼)」との打診が入っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の会議で身体拘束や虐待をテーマにした研修を実施し、学びや意識の向上に取り組んでいる。また、玄関の鍵は日中は施錠せず、常に開放的な環境を実践している。	本年の法改正に伴いマニュアル・指針を整備し、会議運営を年4回終わるとともに、研修会2回、新採者のオリエンテーション内での研修も実施済みです。また職員はやんわりとした口調でその人に合わせた声がけができ、現状心配な点がないことも確認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を通して、拘束や身体拘束への理解を深めている。また、スピーチロックや日々の言動について気になるケアを発見した場合は必ずその場で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を通じて成年後見制度についての学びを行ったり、後見人の役割や必要性を共有し、関係者の方にも相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面や口頭で丁寧に説明し、質問や不安等を確認し、必要時は再度説明したり別紙を設けて理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やケアプラン更新時、担当者会議等、面談する機会を設け、ご意見などを会社や職員に共有し反映している。	家族とのつながりも考慮して専門医の受診支援をお願いしていますが、付添う人も高齢となり、段々事業所に頼みたいとする向きもあり、意見を集めるためにも今後は家族会開催も視野に入れていきます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と主任が職員の個人面談を年1回行い、職員の意見や質問を承っている。また、代表者は年に2回、職員全員と個人面談を設け処遇や働き方など意見を聞いている。	毎月の全体会議には休暇職員もその時間のみ参加しており、また事業所側も時間外手当を捻出しています。おしなべて意見が出てくるようグループワークも取り入れていて、勤務時間帯などの変更に至っています。	管理者はじめ上位者がフォローアップがあることから、職員の自律を視野にいれ、係りなどの役割をつくっていくと、なお良いと思います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に事業所に伺い職員の日々の仕事ぶりを確認したり、管理者からの報告を受け給与水準、労働時間、やりがいがある様施設環境、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員の会議にて内部研修毎月1回(テーマ2つ)、外部研修(認知症実践者研修や介護技術)、また新人にはOJTによる教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事例発表会や同業者同意、多職種連携の勉強会等に参加し、他事業所との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に何度か訪問させていただき、ご本人より聞き取りをしながらアセスメントを行い、ご本人が安心してサービスを受けられるようご利用者や職員との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、ご家族からの困りごと、ニーズを聞き出し、アセスメントを行いながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族から要望や困りごとを聞き、その中からニーズを引き出し、ケアプランを『作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係作りを深めるよう、昼食時はご利用者と職員が一緒のテーブルで同じ内容の食事をしたり、家事活動(洗濯や買い物、料理等)も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の活動の様子を写真や報告書にまとめて家族に郵送したり、ご本人の希望などがあれば電話や面会時に相談しながら外出や買い物、外泊を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行き、ご本人の大切にしているアルバムや家具を施設へ持ち込んだり、昔の友人のいる所へ行き交流を続けている。	編み物や、編み籠の趣味を続ける人たちには職員が材料を寄附したり、一緒に買い物に出ています。以前いた施設に遊びに寄ったことを契機に運動会などに誘ってもらえ、来年のその日を心待ちにする人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が関わりが深まるよう、買い物や散歩等に気の合う人と出掛けたり、作業や家事を皆さんで共に行き、助け合ったり、達成感を味わっていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	つぐみを退所され、特養に入所されたご利用者に面会に行ったり、ご家族に連絡をして御様子を伺ったり相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の発言や様子などから職員同士が記録に書いたり会議等で話し合いながら希望や意向の把握を行っている。	センター方式の『24時間シート(個別の暮らし方)』、『生活リズムパターンシート(バイタルや水分摂取量などのデータを含む本人のリズム)』を把握して、その人らしい暮らしとなるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用開始時にご自宅に訪問し在宅生活での暮らしの様子を把握したり、生活歴やこだわり、家族関係、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、記録、会議等での情報共有、話し合いにより職員全員が把握するよう努めている。また、暮らしシートを活用しながらその日毎の様子を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や全体会議等で話し合いを行い、意見を出し合いながら現状に即した介護計画を作詞したり変更している。	必要な人、家族の希望がある人には作業療法士による個別プログラムが作成され、介護計画書にも位置付けられています。またカンファレンスを2段階式とし、職員からの情報が厚めに集まるよう工夫しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や暮らしシート、申し送り等を行い、共有、実践、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者がその日に感じたこと、やりたいこと等の言動を把握し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや洋品店に出掛ける等、楽しみや懐かしさを感じながら豊かな暮らしに繋がるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族と相談しながら、かかりつけ医を決定、連携を図っている。	8名が月1回の訪問診療をおこなう協力医に変更しています。通院は緊急でない限り家族がおこなうも、事情に因りできないとなれば事業所が代行しています。医療情報は『訪問診療ノート』で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用で変化があった場合には、看護師に相談し共有している。状態により受診をしたり、対応を返納している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際、病院に行ったり、電話で状態を確認している。退院時のカンファレンスに参加したり、社内のOTとも共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と相談し、方針の決定、今後の対応策を検討し対応している。	契約時に『重度化対応・終末期ケア対応指針』に基づき家族に説明し、合意しています。未だ実績はありませんが年間研修に位置づけるほか、救急隊への情報提供票(静岡市消防署)の記載は9名全員分を終え、今後も半年毎に更新の予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修にて施設内の看護師より緊急時の応急処置や初期対応等の書面での学習や情報共有を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い避難の方法や集合する場所等の確認をしている。災害の種類に合わせ、避難方法を検討し実施している。	火災想定では消防署の立ち合いを求め、土砂災害も懸念されるため地区の説明会出向くよう指導を受けています。防火管理者が出席するに至り、ハザードマップも配布され、今後所内に落とし込む予定です。	土砂災害をプラス1として防災訓練を今後もおこなうとともに、通常の法定訓練では夜間想定の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	アセスメントや日常生活の中での様子や性格から、それぞれご本人に適した声かけ等の対応をしている。また、職員内部研修を行い、基本的な接客マナーについて学んでいる。	管理者目線では接遇力を上げていきたいとしていますが、調査者から見では過不足なく、職員は朗らかな中にも礼節がある態度で利用者に接していて、利用者も職員一人ひとりに信頼を寄せている様子が覗えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で選択できるような質問を行い、自己決定ができるよう働きかけている。また、表情やしぐさからその方の希望を読み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間、食事や入浴など本人のペースや思いを優先し、希望に添える様に努力、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、その日に着たい服を選んでいただいたり、その方のこだわりを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日食べたいメニューを聞き、食事に取り入れられたり、買い物や調理、片づけを職員と一緒に進めながら食事が楽しめるよう支援している。	併設事業所の栄養士が用意したメニューで職員が手作りしており、下ごしらえのいる手の込んだ家庭料理が提供されています。パレタインのチョコフォンデュ、ひな祭りのちらし寿司などの行事食も盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を把握し、またご本人の希望や体調を確認しながら栄養バランスの摂れた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めている。本人でできる所はしてもらい、難しいところを介護している。また、訪問歯科による定期的な診察や治療、口腔ケア等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご本人に合わせた誘導の声かけや確認を行っている。	チェック表をつけ、排泄パターンを掴むとともに、「夜間の尿量少くない?」「血液がついていたけど…」といった気づきにつながり、病気の進行を未然に防げたケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間シートの記録等で便秘の方を把握し、センナ茶やヨーグルト等を提供したり、室内外での運動を取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて入浴を提供している。また、ご本人の入浴時間やペース等に配慮し個々にそった支援を行っている。	希望に沿えるようシフトを工夫できており、週2日をアンダーラインとしてはいても3回となるのが大半です。母の日には女子力が高まるローズの浴剤や、冬至には柚子などの変わり湯も実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣や年齢、体調等にに合わせて休息を促したり、安心して気持ちよく眠れるように室温や照明を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにて保管、把握し、変更時も申し送りや記録にて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の持っている力を活かせるよう家事の手伝いや買い物、趣味を職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って散歩や買い物に出かけたり、家族にも協力していただきながら外出等の支援を行っている。	心身状態の変化から散歩が減っている人もいて、すべての利用者が万遍なくというわけにはいきませんが、週に数日は出かけています。初詣、花見(梅・桜)、紅葉狩は恒例となっていて、食材の買い出しのときに同乗する人、個別の買い物外出も支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を確認し、一緒に買い物に出かけてレジの精算をご本人に行ってもらっている。体調不良等で外出が難しい場合は代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により暑中見舞いや年賀状を出したり、電話をかけたりにしている。その際、職員が番号を調べたり住所を記入する等の協力をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食材の紹介や調理の匂い、室内温度、テレビや音楽等の音等、日常生活の中で五感を刺激したり、季節にあった花や飾りをフロアに置く等、居心地の良い空間を作り心に心掛けている。	掃除が行き届き清潔で、サランラップの芯やキャップがレクリエーション用に貯蔵されている様子からも常の取組みが伝わります。実際、折り紙や和小物で桃や扇子、達磨といった縁起物を見立てて釣り雛とし、雛まつりの気分を盛り上げています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に作業スペースを設け、趣味や特技を活かせる空間を設けたり、ソファを並べ気のある仲間とくつろげる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から馴染みの家具や好みものを持ってきていただいたり、好きな物を置いたりしながらご本人が居心地の良い場所になるよう工夫をしている。	塗り絵やパズルが得意な人は色鉛筆やノート等を幾つもそろえ、またベッドで仰臥した状態でアクティビティ作品や小物を並べ、日々眺めて愉しむ様子が覗える居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、手摺などで歩行の補助や安全性を確保している。トイレや浴槽も麻痺の状況により使い分けられるよう作られている。		